

1 調 査 事 件

行財政の効率的運営及び重要施策の推進について

2 調 査 概 要

(1) 和歌山市（人口 355,711人）

ア 和歌山城ホールについて

和歌山市では、多様な芸術文化を市民が創造・発信していく文化拠点、市内外・海外を広くつなぐ交流拠点として、2021年に伏虎中学校の跡地を活用して和歌山城ホールが開館し、指定管理者制度により施設の管理運営を行っている。紀州藩ゆかりの史跡である和歌山城の眼前に立地し、外壁仕上げや内装、化粧手摺壁などに和歌山城との関連性を意識したデザインを使用しており、城下町らしさが至るところに表現されている。屋上には、和歌山城を眺めることができる展望テラスや緑豊かなガーデンテラス、イベントが可能な野外ステージや芝生広場が整備されており、1階にはレストランが設置されているため、来館者が集えるような空間も確保している。建設に係る総工事費は、約117億5,720万5,000円となっている。

同施設における年間の稼働状況について、令和5年度は大ホールが平日43%、休日88%で全体として58%、小ホールが平日43%、休日85%で全体57%、展示室が平日80%、休日97%で全体86%となっている。7種類ある会議室（大会議室、特別会議室、会議室、工房、練習室、和室、リハーサル室）の中には、平日のほうが稼働率の高い部屋もあり、49%から79%の稼働率となっている。大ホールは、客席数が954席（1階席687席（車椅子席6席含む）、2階席267席）あり、舞台、楽屋、オーケストラピット、脇花道、映写室、可動音響反射板などを備えた、音楽、演劇、演芸、講演会などの様々な演目に利用できる多機能ホールとなっている。小ホールは、客席数が395席（車椅子席6席含む）あり、舞台、楽屋などを備え、音楽、講演、式典、小規模な演劇、ダンスなどに利用できる音響性能に優れたホールとなっている。展示室は、面積が386平方メートルで利用可能人数が椅子のみの場合は232人、教室型の場合は120人となっている。絵画展、書道展、写真展、その他展覧会など、市民の芸術、文化活動の成果が展示可能な市民ギャラリーとなっており、講演会、ダンスなどのイベントにも使用できるようになっている。

指定管理者制度による運営の課題と今後の取組については、施設の管理運営を指定管理者に委託することにより、施設に関する知識や管理運営のノウハウを市が把握しにくくなり、指定管理者が施設を適切に管理

運営しているか、指定管理者が変わった際にうまく引継ぎが行われているかを確認することが難しくなるため、定期的に指定管理者から管理運営の状況や引継ぎの状況を聞き取る機会を積極的につくり、継続的に適切な管理運営を行えるような体制をつくることとしている。

(2) 富山市（人口 404,870人）

ア オーバード・ホールについて

富山市では、富山市芸術文化ホール（オーバード・ホール（大ホール））の北側敷地にPFI手法により中規模ホールを整備し、敷地全体の魅力向上や余剰地の最適活用を図るため、民間事業者が施設整備・自主事業を行う中規模ホール整備官民連携事業を行っている。本事業では、新たな芸術拠点として、活発な市民利用を可能とするホールの整備に加え、ホールと民間施設をつなぐ街路空間（キャニオンストリート）を効果的に配置し、富山駅北口エリアににぎわいを創出し、環水公園までの人の流れをつくり出す仕組みを実現している。中規模ホールの施設整備が2023年3月に完了し、同年7月にオープン、10月から一般貸館が開始されており、PFI手法による維持管理業務として、令和5年4月1日から令和20年3月31日までの15年間にわたり、施設の保守・修繕、セキュリティが行われることとなっている。事業費は、既存施設解体費として約2億5,100万円、施設整備費として約59億3,300万円、維持管理費等として約15億円、合計約76億8,400万円となっている。

施設の概要について、中ホールの客席は最大652席（1階362席、2階98席、3階111席、4階81席）で可動式客席を備えた多目的ホールとなっており、4層からなる鉢型ホールは演者の表情などをダイレクトに伝え、舞台と客席の一体感を生み出すことができるつくりとなっている。演目に応じて舞台・客席のレイアウトも自由自在であることから、演劇、コンサート、ファッションショーなど多目的な用途にも柔軟に対応できるようになっている。ホール内部は、建築家である隈 研吾氏の提言により、随所に自然の木材を用いており、客席や壁、床の配色もオーガニックな色調であることから、木の香りや温もりに包まれた心安らぐ空間となっている。1階ロビーには、2階ホワイエへ上るオープンな階段が設けられており、ドリンクカウンターを備えた2階ホワイエは、幕間の休憩に利用できるようなくつろぎの空間となっている。中ホールのバックステージに配置された楽屋は7室（大3室、中2室、小2室）あり、小は面積が約20平方メートル、中が約31平方メートル、大が約53平方メー

トルとなっている。大・中は公演前の出演者控室、ミーティング室としての利用はもちろんのこと、ホールでの公演がない日には、市民の文化活動や交流の場としても利用できるようになっている。また、バレエやダンスの練習に適したウォーミングアップ室は、公演時のリハーサルに加え、イベント会場やレッスン会場として利用することもできる。防音・防振対策が行き届いた練習室は3室あり、ガラス張りの開放的な空間にはドラムセットやピアノを備え、バンドのセッションや合唱の練習など、様々な用途に利用できるようになっている。また、高品位のオーディオ機器とラグジュアリーなインテリアを備えた音楽鑑賞室は、レコード鑑賞会や茶話会など、少人数の交流の場としても利用できるようになっている。

課題と今後の取組については、今回のPFI手法による維持管理のメリットとデメリットを整理し、維持管理業務期間が終了する令和20年4月1日以降の維持管理業務について、再度単体で業務委託という形で外注するのか、それとも自前管理とするのかなど、維持管理方法をどのように行っていくべきかを検討することとしている。

イ 富山市斎場について

富山市では、市内に富山市斎場、婦負斎場、大沢野斎場、北部斎場の4つの斎場があり、そのうち富山市斎場については再整備され、令和3年9月にPFI手法により供用開始している。雄大な立山連峰のパノラマ景観に包まれ、田園風景に静かにたたずむ2階建ての低層斎場となっている。インターネットで24時間どこからでも斎場予約が可能であり、1日の最大火葬件数は20件となっている。また、災害発生時には周辺住民の一時避難所として機能している。

再整備の経緯としては、まず、平成29年3月に第二次富山市総合計画が策定され、重点テーマである「必要な社会インフラの更新・長寿命化」の取組として、斎場の環境整備が主な取組の1つとされたことにより、富山市で最も利用者の多い同施設を再整備することとなった。また、平成30年2月に富山市内斎場再整備基本構想が策定され、今後の火葬需要の増加、施設の老朽化のさらなる進行、耐震等の問題による市民サービスの著しい低下が懸念されることから、早期に再整備を行うこととなった。そのため、基本構想を踏まえ、平成30年4月に富山市斎場再整備基本計画を策定し、基本方針、施設計画、運営計画に基づき再整備を進めることとなった。基本方針としては、大方針が1. 市民ニーズに応えた

安心安全な施設、2. 市民サービスの維持・向上の実現、3. 将来的な課題に対応した効率的な施設と定めており、個別方針として、①人生の終えんの場にふさわしい施設、②利用者の多様なニーズや利便性に配慮した施設、③安心して利用できる施設、④将来の需要に対応できる施設、⑤環境面に配慮した施設、⑥運営面を考慮した効率的な施設と定めている。

工事の経過については、平成30年4月にPFI手法による事業の実施決定により、富山市斎場再整備事業実施方針、要求水準書を公表、同年7月に事業者募集を開始し、同年12月に優先交渉権者が決定された。平成31年3月には事業契約を締結し、令和2年4月に建築工事に着工している。その後、令和3年8月に新斎場の引渡しが完了し、同年9月に供用開始している。

主な設備としては、火葬炉11基、胞衣産汚物焼却炉1炉、告別・収骨室6室、有料待合室6室、待合ホール3箇所となっており、整備事業費は73億8,639万2,000円（建設費40億2,496万5,000円、運営費等33億6,142万7,000円）となっている。告別・収骨室はコンクリート壁で囲むことで隣室からの騒音を防ぎ、厳粛な葬送儀礼に集中できる静かな空間を確保している。また、告別時は暖色、収骨時は寒色とライティングを切り替えることで厳かな儀礼のシークエンスを演出している。待合ホールは富山県の伝統工芸品である八尾和紙を用いた壁紙や温かみのある木材家具でゆっくりと団らんでできる空間となっており、待合室はプライバシーが守られる6部屋の個室があり、すべての待合室から四季の立山が眺望できるようにつくりになっている。また、子ども連れにも配慮し、待合ホールの隣に授乳室やキッズスペースを設置しており、閉じこもりがちな会葬者が外の空気に触れ、気持ちを切り替えられるような快適な空間として立山デッキを設けている。炉室もコンパクトに配置されており、火葬炉11基と炉設備機械を同時に監視できるようにゆとりのあるメンテナンス通路を確保し、安全性・作業性に優れた運営環境を創出している。また、監視室は炉室の中央に位置し、監視がしやすい配置となっていることから事務室と隣接し、連携が取りやすい設計となっている。炉設備機械室の近くには清潔感のある休憩スペースを設置し、働きやすい職場環境を提供している。

今後の課題としては、富山市斎場以外の3斎場も老朽化が進んでおり、本市と同様に令和17年に火葬件数のピークを迎えることが見込まれることから、残りの3斎場についても再整備を検討していくこととしている。